

安全データシート

作成日 : 2017年2月23日, 改訂日 : 2019年1月7日

1 製品及び会社情報	
製品の名称	オートンシールドドライヤー
供給者の会社名	オート化学工業株式会社
住 所	東京都台東区上野5-8-5
電話番号	03-5812-7310
緊急連絡先	生産本部 環境品質保証部 029-831-0913 (ファックス番号 029-831-0923)
推奨用途	シーリング材硬化促進剤 (エアゾール製品)

2 危険有害性の要約			
特有の危険有害性	溶剤の蒸気と空気が混合して爆発性混合物を形成しやすい。		
GHS 分類	物理化学的 危険性	エアゾール	区分1
	健康有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分1
		眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
		生殖毒性	区分2
		特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1,3
		特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1,2
	環境有害性	区分に該当しない	
※上記で記載が無い危険有害性は区分に該当しない、又は分類できない			
GHS ラベル 要素	絵表示		
	注意喚起語	危険	
	危険有害性 情報	極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。 高压容器：熱すると破裂のおそれ。 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。 重篤な眼の損傷。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。 臓器 (中枢神経系、全身毒性) の障害。 呼吸器への刺激のおそれ。 眠気又はめまいのおそれ。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器 (血液系) の障害。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器 (呼吸器系、肝臓、 脾臓) の障害のおそれ。	

	注意書き	<p>全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 熱、火花、裸火、高温付近での作業をしないこと。 作業の際は保護手袋、ゴーグルを着用すること。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用し蒸気の吸入をしないこと。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師の診断を受けること。 誤って眼に入った場合や皮膚に付着した場合は直ちに清水で十分水洗いをする。異常がある場合は医師の診断を受けること。 子供の手の届かない所に保管すること。 火災の場合は適切な消火方法をとること。 内容物/容器を廃棄する時は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
--	------	--

3 組成及び成分情報				
化学物質・混合物	混合物			
GHS 分類に寄与する成分(不純物含む)	イソプロピルアルコール(IPA と略)			
組 成	化学名又は一般名	濃度範囲 (wt%)	CAS RN	官報公示整理番号(化審法)
	イソプロピルアルコール	65～75	登録	既存
	有機酸	1～10	登録	既存
	プロパン	20～30	登録	既存

4 応急措置	
吸入した場合	気分が悪くなった時は、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。衣類をゆるめ、保温、安静を保ち、速やかに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯で流しながら石鹸を使って洗浄する。炎症や痛みなどの症状がでた場合は、医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	清浄な水で最低 15 分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。コタ外着用の場合、容易に外せる場合は、外して、まぶたの裏まで完全に洗浄する。
飲み込んだ場合	無理に吐き出させず、ただちに医療機関へ搬送して処置を受ける。水で口の中をよく洗わせてもよい。被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。

5 火災時の措置	
適切な消火剤	炭酸ガス・泡・粉末・乾燥砂
使ってはならない消火剤	棒状注水

火災時の特有の危険 有害性	蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。 蒸気は空気より重い為、地面に沿って広がり、着火源が有ると蒸気爆発を起こすおそれがある。 火災によって刺激性で有毒なガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	可能であるならば、可燃性のものを周囲から速やかに取り除く。消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
消火を行う者の特別な 保護具及び予防措置	適切な保護具（耐熱着衣、呼吸用保護具、ゴーグル等）を使用し、可能な場合は風上から消火する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事 項、保護具及び緊急時 措置	作業の際には、適切な保護具（保護手袋、呼吸用保護具、ゴーグル）を着用する。
環境に対する注意事項	本製品を環境中（水域、土壌）に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の 方法及び機材	回収、中和：ウエス等で拭き取り、蓋付き容器に回収する。
二次災害の防止策	火気厳禁の処置をとる。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	<p>技術的対策：8 項「ばく露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実に行う。 電気機器類は防爆型（安全構造）のものを用いる。 工具は火花防止型のものを用いる。</p> <p>安全取扱注意事項：全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所で取扱う。 換気の悪い場所では局所排気装置を使用する。 人に向けて噴射しない。皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。</p> <p>接触回避：10 項「安定性及び反応性」記載の混触危険物質と混合接触してはならない。</p> <p>衛生対策：取扱い後は、よく手を洗うこと。 汚染された作業衣は脱ぐこと。</p> <p>その他：高圧ガス取締法に準じた取扱いを行う。</p>
保管	<p>安全な保管条件：火気、熱源から遠ざけて保管する。 湿気を避けて直射日光が当たらない通風の良い涼しい 屋内貯蔵所に保管する。 子供の手の届かない所に保管する。</p> <p>安全な保管条件：10 項「安定性及び反応性」記載の混触危険物質と一緒に保管してはならない。</p> <p>安全な容器包装材料：移し変えてはならない。</p>

8 ばく露防止及び保護措置	
許容濃度	IPA : 400ppm (日本産業衛生学会勧告値) (原料メーカー SDS : 2016/4/4 による) 有機酸 : 設定されていない プロパン : 設定されていない
設備対策	火気厳禁の措置をとる。換気の悪い場所においては、排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
保護具	呼吸用保護具 : 必要に応じ有機ガス用防毒マスクを着用する。 手の保護具 : 必要に応じ有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の保護手袋を着用する。 眼の保護具 : 必要に応じゴーグルを着用する。 皮膚及び身体の保護具 : 体に付着しないように長袖の作業着等を着用する。 必要に応じ有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の保護具を着用する。

9 物理的及び化学的性質	
物理状態	気体 (プロパンを除いた原液 : 液体)
色	無色透明 (プロパンを除いた原液)
臭い	特異臭
沸点	IPA : 82°C (プロパンを除いた原液)
可燃性	溶剤の蒸気と空気が混合して爆発性混合物を形成しやすい
爆発下限界及び爆発上限界	データなし
引火点	12°C (プロパンを除いた原液) (タグ密閉式)
自然発火点	IPA : 399°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	IPA・有機酸 : 水に任意の割合で溶ける
n-オクタノール/水分配係数	有機酸 : $\log P_{ow} = -0.6$
蒸気圧	データなし
密度	0.79 / 25°C (プロパンを除いた原液) (浮き秤)
相対ガス密度 (空気=1)	データなし
粒子特性	液体で対象外

10 安定性及び反応性	
反応性	空気中の湿気と反応し硬化するが、通常の使用では危険な反応はない。
化学的安定性	通常の手扱いは安定。

危険有害反応可能性	混触危険物質と反応、又は加熱すると火災や爆発に至ることがある。
避けるべき条件	熱、火花、裸火、高温、静電放電、混触禁止物質との接触および衝撃により、引火し火災の危険性をもたらす。 換気の悪い場所での作業では、使用している成分の相対ガス密度が空気より重いことから、周辺も火気厳禁とする。
混触危険物質	強酸化剤、強塩基
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

11 有害性情報 ：混合物のデータが無い為、有害成分の情報を記載。	
急性毒性	I P A : LD ₅₀ (経口) ラット 5280mg/kg : LD ₅₀ (経皮) ウサギ 12870mg/kg : LC ₅₀ (吸入) ラット 16000ppm/8h 有機酸 : LD ₅₀ (経口) ラット 3730mg/kg
皮膚腐食性／刺激性	I P A : ウサギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性なし、又は軽度の刺激性の報告がある。ヒトでのホランテア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さない。EHC103(1990) 有機酸 : 重篤な皮膚の腐食性を示す。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	I P A : ウサギでの眼刺激性試験では軽度から重度の刺激性の報告はあるが、重篤な損傷性は記載されていない。EHC103(1990), PATTY(6th, 2012) 有機酸 : 重篤な眼の損傷性を示す。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	I P A : IARC71 (1999) でグループ 3、ACGIH (7th, 2001) で A4 に分類されている。
生殖毒性	I P A : ラットの経口投与による2世代試験では親動物に一般毒性影響(肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加)が認められる用量で雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られた。 PATTY(6th, 2012), SIDS (2002)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	I P A : ヒトで急性中毒として中枢神経抑制(嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性(吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また吸入ばく露により、鼻、喉への刺激性(咳、咽頭痛)を示す。EHC103(1990)、環境省リスク評価第6巻(2005)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	I P A : ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で100mg/m ³ 以上で白血球数の減少が見られ、500mg/m ³ 群では呼吸器(肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた。EHC103(1990)
誤えん有害性	データなし

<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁防止法：非該当 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律：該当（13 項参照）
--

16 その他の情報	
出典	原料メーカーのSDS N I T E の G H S 分類結果データベース
その他	ホルムアルデヒドの発生、及び石綿の使用は無い。

【注意】

- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また新しい知見により改訂されることがあります。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。特別な取扱いをする場合には、用途に適した安全対策を講じた上で実施願います。また本製品を本来の用途以外に使用しないで下さい。